

## 第3回うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 議事録

日時	令和2年3月23日(水) 13時30分～15時30分
場所	うるま市役所 防災会議室
議事項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 確認事項           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第2回有識者会議議事録の確認について</li> <li>(2) 第2回有識者会議議事録での質疑・意見・要望等に対する回答について</li> </ol> </li> <li>3. 説明事項           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) パブリックコメントの実施結果報告について</li> <li>(2) 第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について</li> </ol> </li> <li>4. 連絡事項</li> <li>5. 閉会</li> </ol>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料—1 第2回有識者会議議事録</li> <li>・ 資料—2 島しょ地域振興推進委員会議事録</li> <li>・ 資料—3 パブリックコメントの実施結果報告</li> <li>・ 資料—4 第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)</li> <li>・ 参考資料—1 第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定工程表</li> <li>・ 追加資料—1 第2回有識者会議での確認事項</li> </ul>

## ○出席者

	分野	氏名	団体	出欠
委員	学識	瀬口 浩一	国立大学法人琉球大学 国際地域創造学部 教授	○
	産業	新垣 壮大	うるま市商工会 会長	×
	産業	中村 薫	うるま市観光物産協会 副理事長	○
	労働	赤嶺 久美	一般社団法人ジョブブリッジ研究所 代表理事	○
	報道	伊波 良和	株式会社 FM うるま 取締役会長	○
	市民公募	高里 彰吾		×
	市民公募	田中 啓介		○
	市民公募	玉栄 章宏		○
	子育て	外間 ケイ子	社会福祉法人かなさ福祉会 公私連携幼保連 携型認定こども園 へしきや・かなさこども 園 園長	○
	自治会	玉城 正則	うるま市自自会長連絡協議会 伊計自治会 会長	○
	産業	阿嘉 良勝	沖縄県農業協同組合具志川支店 支店長	○
	金融	大城 盛直	沖縄振興開発金融公庫中部支店 支店長	×
行政	大田 定	内閣府沖縄総合御事務局 経済産業部企画振 興課 課長	×	
事務局	企画政策課	金城 和明	課長	
	企画政策課	宮城 哲博	係長	
	企画政策課	伊佐 義永	主任主事	
	企画政策課	盛根 淳二	主任主事	

## 議 事 内 容

## 1. 開会

## 2. 確認事項

## (1) 第2回有識者会議議事録の確認について

## 資料説明 (事務局)

## 質疑応答

- ・ P.2 島しょ地域、「子育てに感心する」ではなく「関心のある」ではないか。(委員)  
→修正する。(事務局)
- ・ P.3 第1次と第2次との相違点を総括いただきたいと述べた内容について、特に KPI の比較が十分でないと感じる。本日はその点について特に述べさせていただきたい。(委員)

## (2) 第2回有識者会議議事録での質疑・意見・要望等に対する回答について

## 資料説明 (事務局)

## 質疑応答

- ・ 今後の修正としては第1次の KPI の評価を総合戦略の本編に含める。(事務局)  
→第1次との比較が不十分であったと述べたが、KPI の評価の比較を実施するのであれば問題ない。KPI の評価が入った報告書は我々が確認することはできないのか。(委員)  
→今年度中に総合戦略を策定するため、確認いただくことは日程的に困難であると思われる。(事務局)  
→委員会の開催は困難だが、メールで各委員からのコメントを受け付けるように対応いただけないか。(委員)  
→承知した。追加部分をメールで送付し、委員の皆様を確認いただくこととする。(事務局)
- ・ 島しょ地域振興委員会について、非常に良い取り組みであると考え。トップダウンではなく、職員同士の横のつながりを持って今後も推進していただきたい。(委員)

## 3. 説明事項

## (1) パブリックコメント実施結果報告について

## 資料説明 (事務局)

## 質疑応答

- ・ 期間が10日であったというタイトなスケジュールも影響して、0件という結果になったと考えている。(事務局)  
→第1次の時のパブリックコメントはどの程度の期間で実施し、意見の提出は何件あったか。(委員)  
→1か月開催し、件数は0件であった。(事務局)  
→意見を集める媒体としては今回と同様か。(委員)  
→前回もHPで公示し、窓口で意見を集める方法をとった。今回と同様である。(事務局)  
→期間はあまり影響していないと考えられるため、次回以降は意見を集める方法について検討いただきたい。インターネットやメール等で呼びかけるのでは十分でなく、市民対話集会のようなオープンな場で総合戦略のテーマに沿って意見を交換する機会を設けるなど、直接対話する方法を含めて市民の意見を集めることも効果的ではないかと考える。(委員)  
→実施方法も含めて検討課題であると認識している。(事務局)

## (2) 第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

## 資料説明 (事務局)

## 質疑応答

- ・ ふるさと納税を活用する企業は大企業であると想定するが、大企業はふるさとを持たない、もしくは自分の納税している市町村を基盤としていることが多く、企業としてふるさと納税がやりにくいということを聞いている。その際に柱として企業版ふるさと納税を構えるのは危ういのではないかと考える。民間の資金を活用することも重要であり、PFI(民間資金等活用事業)なども進めていかなければならないと考えている。文言としてPFIの記載も入れることを検討していただきたい。また、p.93の農業のKPIとして、基本施策1-2のKPIで新規就農者数を定めているが、人だけでなく土地も農業では重要であるため、耕作放棄地への対策も含めてほしい。(委員)  
→可能な限り反映する。民間資金の活用についても表現を工夫する。(事務局)
- ・ P.93 レンタル農場設置事業について、農業をやりたいという人は多いため、移住希望者に耕作農地を貸すことは効果的であると思う。経営安定化の向上、農業基盤を確立することが重要である。高齢化が進む中で事業費用が高くなればなるほど農業者が少なければ負担になる。新技術を取り入れても活用しなくなる事例もあるため生産者の生産意欲が湧くような事業を推進していただきたい。また、各自治会が主体的にイベントを行わなければ自治力が落ちてしまうため、自治会主体でのイベントが重要である。(委員)  
→各現課と調整しながらより効果的な施策となるように調整を進めていきたい。(事務局)
- ・ 総合戦略には含まれていないが、様々な撮影に関しても施策を打ち出していきたい。PRすることも良いが

マナーを守ってもらえるように窓口として規律を作っていただきたい。(委員)

→フィルムコミッションについては、観光振興課が窓口となって進めている。個人撮影も多く、体制を築くことも困難だがマナーを守った撮影をするように進めていく。(事務局)

- ・ P. 87 から施策の体系が記載されているが、今回のコロナウイルスのように予測できない事態に対応するような事業はあるのか。(委員)

→現在策定している総合戦略については地方創生の枠の中で策定するものであり、すべての事業を網羅しているわけではない。少子高齢化への対応が主な目的となっているため、今回のコロナのような予測が困難な事態に備えた事業は記載していない。戦略に掲げる事業においては毎年評価を実施しており、事業の見直しは行っていることに加え、必要に応じて戦略自体の変更も可能である。(事務局)

→豚熱やコロナウイルスも踏まえて、市として今後対応危機管理への対応は考えていかなければならないところである。どのように計画に含めていくかについて現在は考えてはいないが、基本目標4の中に危機管理体制の構築について含めるかなど検討したい。(事務局)
- ・ 各 KPI の評価について、市民アンケートによる分析を行っているか。第1次総合戦略における事業に対するアンケートを実施しているのか。もしくは第2次の施策を決めるにあたってのアンケートを実施しているのか。(委員)

→第1次の評価と第2次の課題を見つけるためのアンケートを兼ねている。分けて記載していないため、記載方法を工夫する。(事務局)
- ・ 第3章の1は第1次の評価についてであるが、第3章の2以降は第2次の施策に関する内容であることを明記した方が良いのではないかと考える。また、第1次の KPI の評価が現在数行しか記載されていないため、充実させていただきたい。(委員)

→p. 76 の第1次の評価の記載は修正して充実させる。(事務局)
- ・ 基本目標ごとの数値目標も数値化して評価できるものであるため、評価していただきたい。(委員)

→前回は数値目標を定めていないため、評価はできないが、次回から実施する。(事務局)
- ・ 第1次の KPI として記載されていた KPI のうち、宿泊数、あやはし館の来場者数、本社・事務所機能等の移転件数、婚姻数、学校施設の耐震化率、鳥しょ地域における路線バス利用者数、鳥しょ地域に住みたい人の割合の7つは第2次の KPI では含まれていない。これらの第2次で記載していない KPI についても第1次の評価の項目では評価していただきたい。(委員)
- ・ PDCA サイクルの確立について、GAPD を大切にしていきたい。特に第2次のように第1次を受けて計画策定する場合はチェック・アクションをしてからプランを立てていただきたい。分析がしっかりしていないため、プランが中心となってしまう。(委員)
- ・ 有識者会議は継続するのか。来年度末に各事業の評価をした際にはまたこのように報告をしていただけるのか。(委員)

→今回は2ヶ年で設定させていただいており、今年度は策定、来年度以降は毎年実績報告を実施するため、来年度以降も継続していくこととなる。(事務局)
- ・ 市民にとって魅力のあるまちを作るという観点で意見を述べさせていただく。施策や事業に反映させることは困難だと想定するが、文言や方向性を追加いただけたら考えている。魅力ある安定した雇用の場について、雇用創出に関する内容は多いと思うが、組織のマネジメントの在り方(テレワークやコワーキングなど)には触れていないため、含めることが望ましい。ティール型組織などのようにこれまでとは違う組織の在り方をうるま市でも積極的に進めていく必要がある。また、労務環境の改善についても記載は必要であると考え。有給休暇の取得率やハラスメント対策、うつ病対策、復職支援などの労務環境の抜本的な改善が現在の総合戦略の中には不足しているのではないかと考える。(委員)
- ・ ひとの流れを作る中で移住定住のほかに関係人口も重要であると考え、関係人口にも段階があると考え。例えば、観光で訪れたことからうるま市のハードリピーターになる、ふるさと納税を行う、東京とうるま市の二拠点で活動するなどといった関係人口のどのレイヤーに注力するかが重要だと考える。ふるさと納税も地域のファンを育てるという点では重要な要因となっている。観光も満足度を高めてリピーターを獲得することが関係人口へとつながると考えられる。また、観光面ではオーバーツーリズムの問題がある中、地域保全の観点を含めて持続可能な観光、サステナブルツーリズムについても言及すると良いと考える。また、関係人口を今後も広げていくためには教育との連携が重要である。久米島などは短期留学制度もあり、そのような連携も今後は進めていく必要がある。(委員)
- ・ 基本目標4の「快適で安心して暮らせるまちをつくる」の中で市民の健康についての記載がない。心身ともに健康であることが安心して暮らすことにつながるのではないかと考える。また、幸福度についても1つの指針になるのではないかと考える。教育の中では、リカレント教育や子どもたちに対するグローバル教育についても触れていただきたい。(委員)
- ・ 推進体制は重要だと考えており、市民協働も重要だが、行政の中における横断的な職員の関係についても重要だと考える。特にSDGsに対する市の職員の理解についても触れてほしい。(委員)
- ・ 企業版ふるさと納税については全国の自治体が声を上げている中でどのようにうるま市が選ばれるかを考えなければならぬ。その際にSDGsの観点は重要になると考える。施策とSDGsの紐づけを見せるだけでは見せか

けのみになってしまい、メッセージとして弱いと、17のゴールの下位に位置づけられている169のターゲットとの紐づけが必要であると考えます。SDGsについては経団連の方針もあって企業も取り組み方を検討している中で、施策とSDGsの指標がどの程度紐づいているかが分かるとESG投資のように企業も応援しやすいのではないか。(委員)

- ・ 具体的な事業が示しているのは市の実施計画で記載されている事業についてであり、基本的方向性の中でお示しできたら良いと考えます。SDGsについては市の中でも方向性が定まっていない状況である。企業版ふるさと納税を実施していく中でより精緻化していくよう検討する。(事務局)
- ・ P.88の施策体系について、人口の増減が中心になっているが、高齢化も明らかであり、高齢者に対する施策も必要であると考えますが、そのような施策はどこかに含まれているか。介護に関する内容や介護を支える人たちの施策なども記載する必要があるのではないかと。若い人に向けての施策は含まれているため、高齢者に対する施策も今後は大きな問題となるため含めていただきたい。(委員)  
→高齢者に対する施策については基本目標4の中で高齢者福祉施設の整備や交通の利便性向上など含まれているため、基本的方向性に追加して記載する。(事務局)
- ・ KPIなどの分析方法について、アンケートを取るだけでは分析できないこともあると思う。複合的に見て評価していく必要があると考えますが、分析や評価についてどのように考えているか。(委員)  
→第2次においては各課で数値やアンケートで確認できる内容のみKPIとして記載しているため、今後は確実に評価、分析が可能であると考えている。(事務局)
- ・ 施政方針は市の方針が記されていると考えられるが、うるま市の15年の施政方針を整理していくと、消えていく項目がある。それを確認することで必要な施策の確認ができると思うため、実施いただきたい。(委員)

#### 4. 連絡事項

- ・ 総合戦略に追加した分をメールにてご連絡するので、ご確認いただきたい。(事務局)

以上